



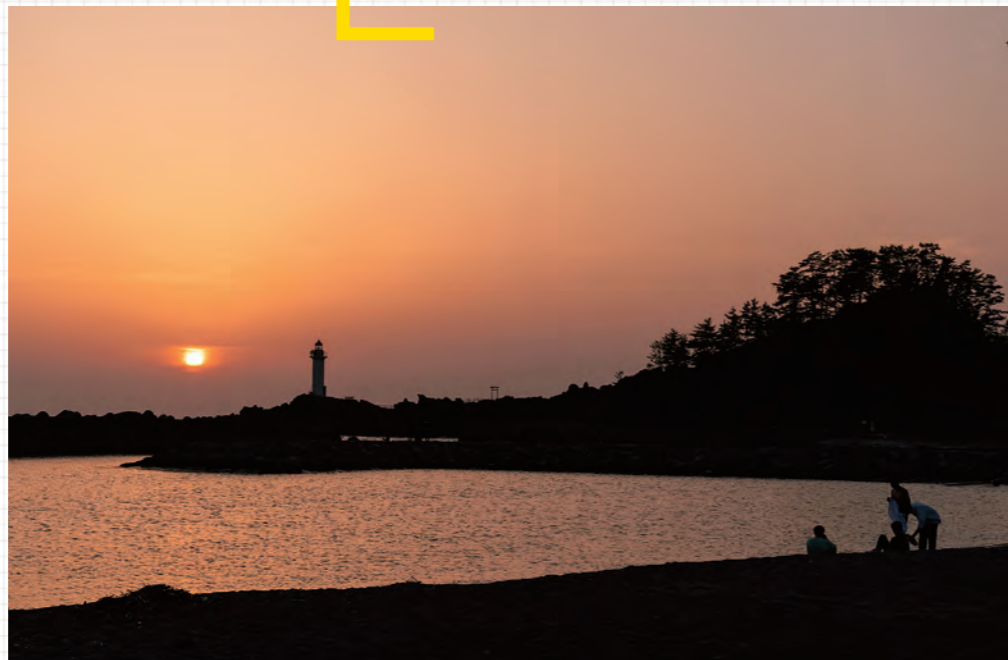
まずは陸上で、パドルの使い方のレクチャーから。

Green Blue
あつみって？

鶴岡市の温海地域で、地域の特徴を活かしたさまざまなプログラムが体験できるサービスです。豊かな自然、暮らしの中の知恵や文化などを、人々が守り受け継いできた温海らしさを、体験を通じて次の世代につなぎ発展させていくことを目指し、NPO法人自然体験温海コーディネートネットワークが企画運営しています。2015年から体験プログラムの提供を開始し、8年目となった2022年度は、県内外からのべ4247人もの方が訪れ、さまざまなプログラムを楽しんだそうです。

構成する27の集落それぞれに、多様な暮らし方や文化が受け継がれている一方で、「海に面しながらも、面積の約9割を森林が占める地理的特性も要因になっていると思います」とジョーさんが教えてくれました。1200年以上の歴史を持つ、あつみ温泉を軸とした観光産業で発

温海って どんなところ？



展してきた地域で、現在も観光業に従事する人がとても多いとのこと。2005年に鶴岡市と合併する前は、温海町と呼ばれていたため、もともと鶴岡市だった地域と区別するために、「旧温海町」と呼ばれることもあります。



レクチャー後、ライフジャケットを身につけ、いざ出航!



海と体になる感覚を、楽しんでください。

庄内 3は3は3は3は

Green Blue
あつみ

10代と考える、庄内のおもしろさ②

Supported by
庄内広域行政組合、山形県庄内総合支庁



2回目となる今回は、ぐくくと南下し新潟県と隣接する鶴岡市温海地域へ。Green Blue あつみの企画運営に携わるお2人に、地域との関わり合いや、そのおもしろさについて伺いました。

自然体験温海コーディネート
営業企画部マネージャー
ジョーさん

自然体験温海コーディネート
インストラクター
リョーイ
陵一さん

加茂水産高校3年
小松 陽介さん

加茂水産高校3年
小松 イブキさん



3 どんないかが体験できる？

温海地域について知ってもらうだけでなく、発見や、考えたり調べたりするきっかけも提供したいと考えているそう。「イカの一泊干し体験であれば、イカが捕食者である大きな魚などから逃げるために水上に飛び出すこと、そのときに胴体が裂けてしまわないための部位が存在することなどをお話して、捌きながらその部位を触って実感してもらおう。体験を通じて、イカはもとより生きものの行動や体の仕組み、生態系などについても興味を持ってくれたらいいですね」とジョーさん。また、海ゴミ問題など、規模が大きく他地域でも起きていることについては、体験を通じて現状を知ってもらい、普段の生活の中でできることから取り組んでもらえるような働きかけもしているそうです。



4 どんないかで体験を企画している？

体験プログラムは、「ウミのタイケン」「モリのタイケン」の大きく2つに分けることができます。前者は、僕たちが体験させてもらったシーカヤックやSUPなどのスポーツのほか、地曳網やイカの一泊干しづくり、手づくり竿での磯ガニ釣りなど海の生きものに触れるもの、砂浜に落ちている貝殻やゴミを使った

工作などです。後者は、山五十川地区の伝統芸能「山五十川歌舞伎」の化粧や所作の体験、シナノキの樹皮を使った日本三大古布「しな織」が伝わる関川地区での、端材を活用したタッセルづくり、花を活用させたけんづくりなどです。



とより生きものの行動や体の仕組み、生態系などについても興味を持ってくれたらいいですね」とジョーさん。また、海ゴミ問題など、規模が大きく他地域でも起きていることについては、体験を通じて現状を知ってもらい、普段の生活の中でできることから取り組んでもらえるような働きかけもしているそうです。

体験を提供する

喜び・おもしろさは？

5 陵一さんの一番の喜びは、人との出会いだといいます。「この仕事をしたいなければ出会えなかったであろうたくさんの人と、いろんなお話ができるのがおもしろいですね。お礼のメールをいただくこともあるんですが、あつみ温泉に泊まりがけで2日続けて体験に来られたお客さまが、長期入院後初の旅行だったそうで、『いろんなお話をしてくださり、久しぶりにとっても楽しい時間を過ごせました』というメールをくださったので、この仕事やっててよかったなと思えましたね。」

ジョーさんにとっては、自然の魅力をあらためて感じられるところが、



わかりやすいご指導のおかげで、すぐにスイスイ進めるように。

一番のおもしろさだといいます。「お客さまが風や水、光を感じて喜んでくださるのを見て、普段の生活の中では自然を感じる機会がない方がとても多いことがわかりました。そして、自然が生み出すさまざまな変化は人間にとって心地よく、かつ必要なものだと感じるようになりました。自然との橋渡し役として、たくさんの方に本能的な喜びを感じてもらえることがとてもおもしろいです。」

お2人から皆さんへ

お2人のメッセージに共通していたのは、「体験を通じて地域と自分

のつながりを感じてほしい」ということ。「進学や就職で庄内を出ることになっても、地元とのつながりを常に感じてもらえるように、若い世代にもどんどん体験に来てもらいたいですね」と陵一さん。ジョーさんは「生まれ育った土地について深く知ることは、自分らしさの理解にもつながっている」と考えているそう。「地元を知り、自分のルーツをぼんやりとでも感じることで、やりたいことが見えてくることもあると思うんです。これからの季節ですし、進路に悩んでモヤモヤしている人は、ぜひ一度体験に来てみてほしいですね。」

取材・編集・文リクレードル編集部、工藤拓也
写真：間真由美
協力：Green Blue あつみ、加茂水産高校

取材後記



カヤックは、海と一体になれる感じがとても気持ちよかったです。また、私はボランティア部に所属していますが、「きちんとお金をいただくのは、継続的な取り組みにするため」というジョーさんの言葉に、ハッとさせられました。(菊池)

透明なカヤックの船底を通して見る海は、本当に美しかったです。Green Blue あつみに携わる方々が、地域をよくしたいという思いで、海ゴミなどの課題解決にも取り組んでくれているから、出会えた美しさであることがわかりました。(小松)



Twitterアカウント (@shonaigo)

「庄内さ、いGO!」

庄内暮らしの魅力、移住定住情報を発信中!

庄内地域移住交流推進協議会
事務局：山形県庄内総合支庁総務企画部総務課連携支援室



Green Blue あつみ

住：山形県鶴岡市鼠ヶ関丙150(鼠ヶ関公民館内)
電：050-5848-7946